



今週の T2 経済レポート

2020年1月24日号

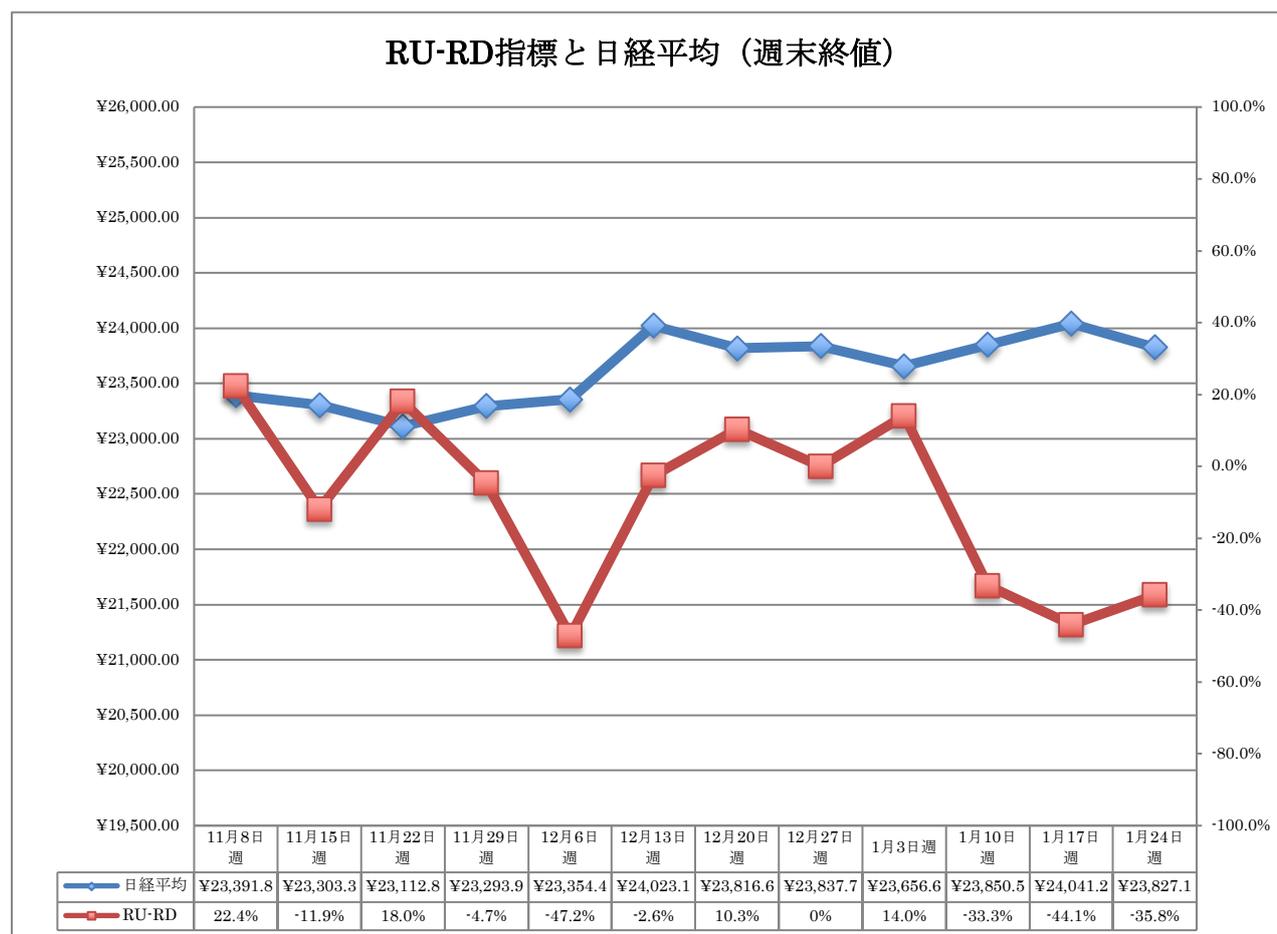
■■■ 市場ウオッチ ■■■

<先週のマーケットを振り返る>

先週、「今週は軟調相場の週となりそうです。今週(1/20~1/24)の相場を占う『RU-RD 指標』は1月3日週が-44.4%と2週連続マイナス圏、かつ昨年11月22日週以来の下限ゾーンに陥ったことで軟調な相場となりそうです。ただ来週(1/27~1/31)の相場を占う1月17日週が+25.0%と4週間振りにプラス圏に浮上したことで急反発が期待されますが、仮に今週も何らかの株価操作で急落のような動きが起これないと、来週の急反発の可能性も小さくなるかと思われそうですが、2度の3週連続マイナス圏での急落を避けた株価操作の反動は大きくなると予想されます。今回の株価上昇局面では2019年11月11日週~25日週、12月23日週~1月6日週の2度、3週連続マイナス圏に陥っていますが、3週連続以上マイナス圏が継続したのは、昨年4月22日週~5月13日週の4週連続マイナス圏以来。当時、日経平均は4月26日週 22362円→6月7日週 20289円まで2000円幅の下落が起きているためです。前回「2019年11月11日週~25日週が3週連続マイナス圏」は何らかの株価操作によって再上昇を演出しましたが、今回は『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』が異なっているため急落調整は避けられないかたちです。同指標は10月18日週+40.0%→10月25日 60%→11月1日 52.9%→11月8日 65.7%→11月15日 61.4%と5週連続で上限ゾーンを突破した後、11月22日週 38.6%を挟んで、11月29日週 41.4%→12月6日週 50.0%→12月13日週 47.1%→12月20日週 57.1%→12月27日週 41.4%と再び、5週連続で上限ゾーンを突破しましたが、1月3日週 +18.6%→1月10日週 -8.6%→1月13日週 +11.4%と、6週間振りに上限ゾーンの連続突破が途切れ、更に、19年9月2日週以来、18週振りにマイナス圏に陥ったためです。また、今回の株価上昇局面では昨年10月25日週 60%、11月8日週 65.7%、11月15日週 61.4%と3度の60%超を記録しましたが、『60%超の高水準の上限ゾーンは目先、天井を示すシグナルにもなっています。直近では「VIXショック」直前の24000円台の高値を付けた18年1月以来の60%超。』、『2020年1月は2018年1月のような1月となることを想定しておいた方が良い』と指摘してきました。ちなみに、18年1月の「VIXショック」当時、同指標は17年12月11日週~18年1月22日週まで7週

連続で上限ゾーンを突破した後、それが途切れた直後から日経平均は 18 年ピーク 1 月 26 日週 24129 円→3 月 30 日週安値 20347 円まで約 3700 円幅の急落調整となっています。

今週は、経済指標では、国内は、23 日に 12 月貿易統計、24 日に 12 月消費者物価、12 月 18、19 日の金融政策決定会合議事要旨、海外は、21 日に米 12 月中古住宅販売件数、23 日に米 12 月 CB 景気先行総合指数、24 日に 1 月マークイット米国製造業 PMI が予定されています。24 日発表の米マークイット 1 月製造業 PMI は 52.8 と、12 月の 52.4 をやや上回る公算です。マークイット 1 月製造業 PMI が市場予想を上回った場合、来月初旬に発表される 1 月 ISM 製造業景況指数の改善が期待されそうです。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、20 日に日銀金融政策決定会合(21 日まで)、通常国会召集、21 日に黒田日銀総裁会見、海外は、20 日はキング牧師生誕記念日で米国市場休場、21 日に世界経済フォーラム(ダボス会議、24 日まで)、23 日に ECB 定例理事会、ラガルド総裁会見、24 日は春節で中国市場が 30 日まで休場が予定されています。」とコメントしました。



1 月 3 日週	1 月 10 日週	1 月 17 日週	1 月 24 日週
¥23,656.62	¥23,850.57	¥24,041.26	¥23,827.18
14.0%	-33.3%	-44.10%	-35.8%

先週の日経平均は、高値 24108 円(1 月 20 日)・安値 23755 円(1 月 24 日)と推移、3 週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、中国で発生した新型コロナウイルスによる肺炎患者の拡大によりアジア株がほぼ全面安、その後、中国・武漢市が新型コロナウイルスの感染拡大阻止のために公共交通機関運行停止を発表、さらに中国政府が複数都市での移動制限措置を実施したことから中国経済の減速懸念が強まり下落はしましたが下値目標値は達成せず、週間ベースで-214 円安と 3 週間振りに下落したものの中途半端な下落で終了しています(先週予告していた上値メド 24138 円～24620 円(+2%かい離)//下値メド 23577 円～23105 円(-2%かい離))。『大台替えと時間の物理学的法則』では、小刻みの大台替えで、1 月 19 日(猶予で 20 日)まで 24500 円大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。25000 円大台替えで仕切り直し、逆に、23500 円大台割れで下落スタートとなります。中期の大台替えでは、1 月 14 日に 24000 円大台替えで仕切り直しが入りました。25000 円大台替えでカウントダウンの上昇局面、逆に、23000 円大台割れで下落スタートとなります。また長期の方向を示す月ベースの大台替えの法則では、時間切れで、25000 円大台替えで仕切り直し、逆に、22000 円大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期↑、長期→となり、目先、乱高下しやすいかたちに変化しました。

日経平均を左右する NY ダウは、高値 29341 ドル(1 月 21 日)・安値 28843 ドル(1 月 24 日)と推移、7 週間振りに前半高・後半安の弱いかたち。先週は、米疾病対策センター(CDC)が米国内で新たな新型肺炎の感染を確認したことやフランスでも新型肺炎の感染が確認されたことから感染拡大懸念によるリスク回避の売りが拡がり下値目標値を達成、週間ベースでは-359 ドル安と 3 週間振りに下落して終了しています(先週予告していた上値メド 29420 ドル～30008 ドル(+2%かい離)//下値メド 28867 ドル～28289 ドル(-2%かい離))。「大台替えの法則」では、短期の大台替えで、1 月 3 日までに 29000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。29500 ドル大台替えで仕切り直し、逆に、28000 ドル大台割れで下落局面となります。中期の方向を示す月ベースでは、12 月 19 日までに 29000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが時間切れ。30000 ドル大台替えで仕切り直し、逆に、27000 ドル大台割れで下落スタートとなります。長期の方向を示す月ベースでは、12 月までに 29000 ドル大台替えでカウントダウン継続を狙う時間帯に入りましたが実現せず時間切れ。30000 ドル大台替えで仕切り直し、逆に、27000 ドル大台割れで下落スタートとなります。これで短期→、中期→、長期→となり、短期・中期・長期的に方向感がなくなり、乱高下しやすいかたちに変化しました。

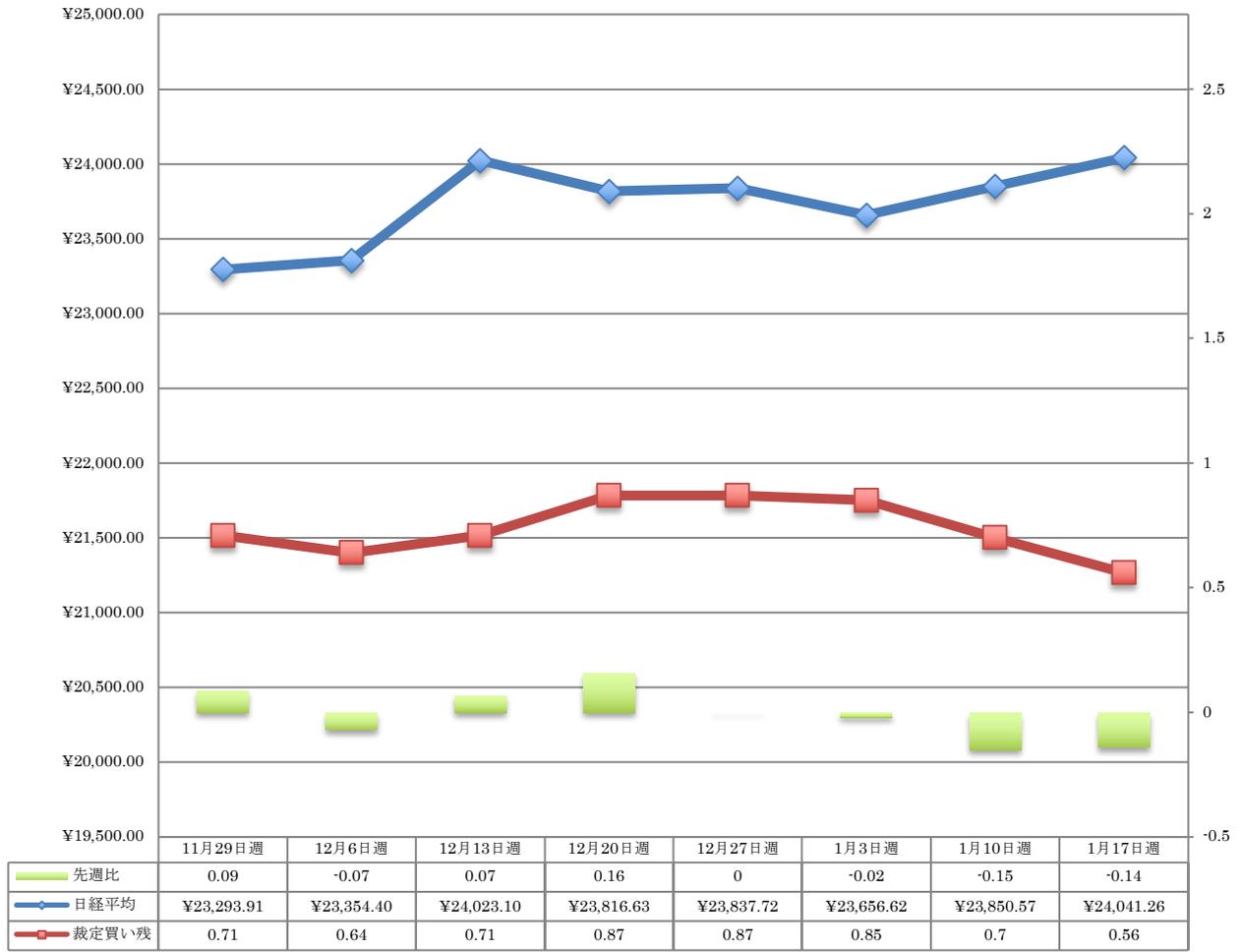
一方、為替は、ドル・円が 110.21 円～109.15 円(先週予告していた上値メド 110.55 円～111.65 円(+1%かい離)//下値メド 109.09 円～107.99 円(-1%かい離))と推移、上値・下値両目標値を達成しない中途半端な週でしたが前の週と異なり円高・ドル安、ドル・ユーロは、1.1118～1.1018(先週予告していた上値メド 1.1146～1.1257(+1%かい離)//下値メド 1.1059～1.0948(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し 3 週連続でドル高・ユーロ安。また、ユーロ円は、122.35 円～120.37

円(先週予告していた上値メド 122.50 円～123.72 円(+1%かい離)//下値メド 121.33 円～120.11 円(-1%かい離))と推移し、下値目標値を達成し、前の週と異なり、円高・ユーロ安。前の週のドル>ユーロ>円から円>ドル>ユーロに変化しています。中国・武漢市で発生した新型コロナウイルスによる肺炎の感染拡大を懸念してリスク回避的な円買いが優勢となりましたが、世界保健機構(WHO)が「緊急事態宣言には時期尚早」との判断を下したことでドル円は一旦、円買いが抑制されたかたちです。

<裁定買い残>

4週連続で減少しています。同水準は19年9月3984億円の歴史的低水準で底打ちし、16年9月4012億円に対する二番底を打ったかたちです。過去の推移を振り返ると、18年9月14日週～28日週の3週間合計で+1.12兆円の急増となり、18年5月21日週以来、約4ヶ月振りに2兆5000億円円台を回復して18年10月2日の日経平均の年初来高値更新を演出。その後、18年10月1日週～10月26日週の4週連続減少、4週間合計で約1.5兆円急減、この4週間のうち1週間は5000億円と18年2月5日週以来の急減で、やはり18年10月からの暴落は「VIXショック」と同様、投機筋の外国人の売り仕掛けだったことを証明しています。

裁定買い残と先週比



12月27日週	1月3日週	1月10日週	1月17日週
¥23,837.72	¥23,656.62	¥23,850.57	¥24,041.26
0.87	0.85	0.7	0.56
0	-0.02	-0.15	-0.14

単位: 兆円

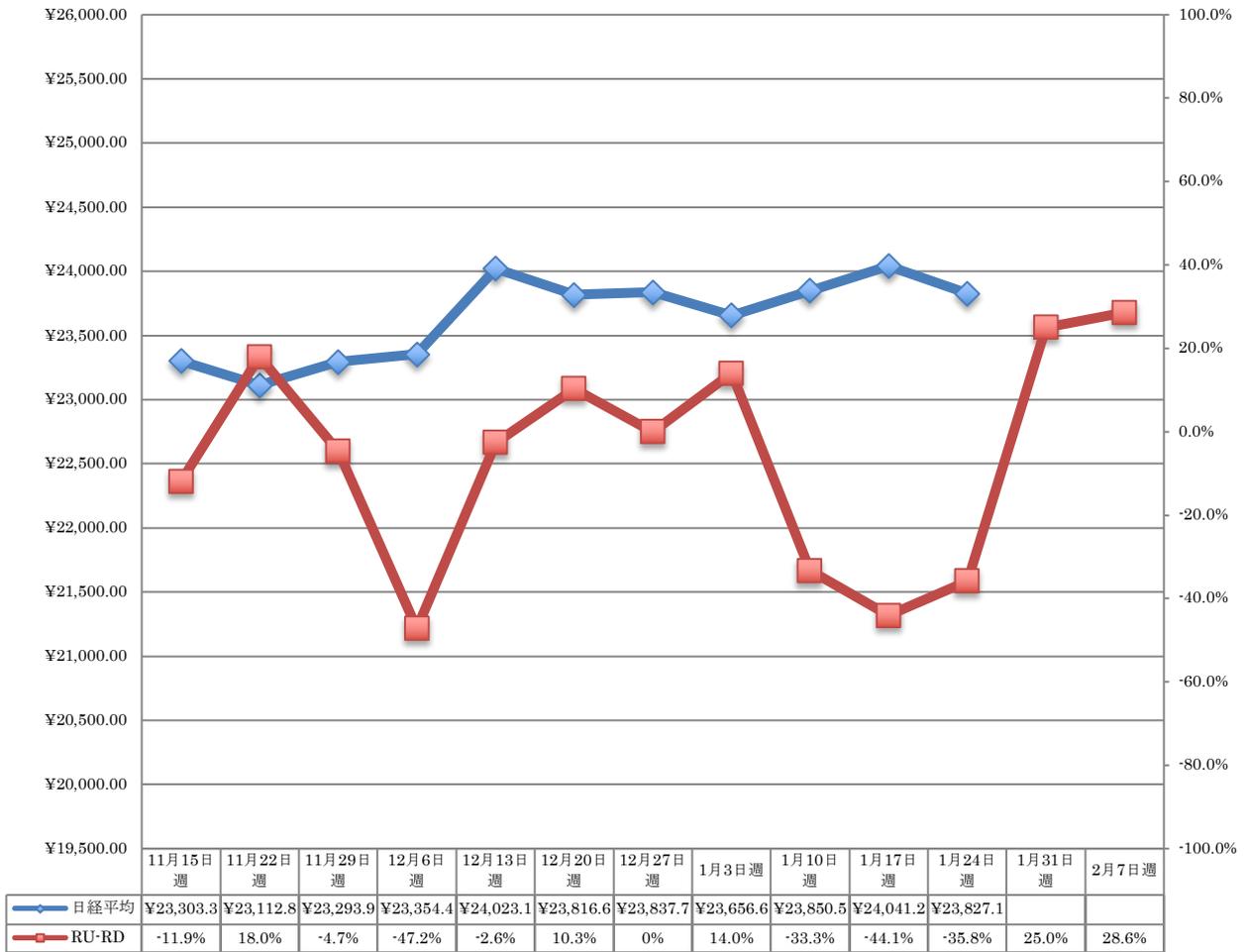
<今週のマーケットの見通し>

今週は本来は急反発が期待される週となりそうです。今週(1/27~1/31)の相場を占う『RU-RD 指標』は1月17日週が+25.0%と4週間振りにプラス圏に浮上したことで急反発が期待されますが、本来、急落調整すべき先週が中途半端な下落となったことで、急反発の可能性も小さくなった可能性があります。来週(2/3~2/7)の相場を占う1月24日週が+28.6%と2週連続プラス圏となったことで堅調相場が継続する可能性があります。昨年9月以降の上昇局面で発生した2019年11月11日週~25日週、12月23日週~1月6日週の2度の「3週連続マイナス圏」での急落調整局面は何らかの株価操作が行われたことでその反動は今後、大きくなると予想されます。それ以前に3週連続以上マイナス圏が継続したのは、昨年4月22日週~5月13日週の4週連続マイナス圏以来でしたが、当時、日経平均は4月26日週 22362円→6月7日週 20289円まで2000円幅の下落が起きているためです。一方、『日経平均とのほぼ一致指標である「買い(レーティング1と2)」「売り(レーティング3と4)」銘柄比率』は10月18日週+40.0%→10月25日 60%→11月1日 52.9%→11月8日 65.7%→11月15日 61.4%と5週連続で上限ゾーンを突破した後、11月22日週 38.6%を挟んで、11月29日週 41.4%→12月6日週 50.0%→12月13日週 47.1%→12月20日週 57.1%→12月27日週 41.4%と再び、5週連続で上限ゾーンを突破。その後、1月3日週 +18.6%→1月10日週 -8.6%→1月17日週 +11.4%→1月24日週 +40.0%と推移し、19年9月2日週以来、18週振りにマイナス圏に陥ったものの、4週間振りに上限ゾーンに再び戻しています。いかに下落させたくない力が働いている証拠でもあります。過去、同指標は上限ゾーン後にマイナス圏に一度陥って再び上昇してもすぐに-40%の下限ゾーンまで急落しており、今回も同様な動きになるかと思われます。また、今回の株価上昇局面では昨年10月25日週 60%、11月8日週 65.7%、11月15日週 61.4%と3度の60%超を記録しましたが、『60%超の高水準の上限ゾーンは目先、天井を示すシグナルにもなっています。直近では「VIXショック」直前の24000円台の高値を付けた18年1月以来の60%超』で、18年1月の「VIXショック」当時、同指標は17年12月11日週~18年1月22日週まで7週連続で上限ゾーンを突破した後、それが途切れた直後から日経平均は18年ピーク1月26日週 24129円→3月30日週安値 20347円まで約3700円幅の急落調整となっています。

今週は、経済指標では、国内は、29日に1月消費動向調査、31日に12月失業率・有効求人倍率、12月鉱工業生産、12月商業動態統計、海外は、28日に米11月S&PコアロジックCS住宅価格指数、30日に米10-12月期GDP速報値、31日に中国1月製造業PMI、EU10-12月期GDP、が予定されています。30日発表の米10-12月期国内総生産(GDP)速報値は7-9月期実績値+2.1%を上回った場合、株高や金利高を手がかりにドル買いが強まる可能性があります。このほかのイベント・トピックスとしては、国内は、29日に1月20日・21日の金融政策決定会合の「主な意見」、海外は、28日にFOMC(29日まで)、30日に英国金融政策発表、31日に英国がEU(欧州連合)を離脱

する見通しです。

RU-RD指標と日経平均（週末終値）



1月17日週	1月24日週	1月31日週	2月7日週
¥24,041.26	¥23,827.18		
-44.10%	-35.80%	25.00%	28.60%

■■■ 今週の各指標の上値・下値メモ ■■■

<日経平均>

上値メモ 24536 円～25026 円 (+2%かい離)

下値メモ 23917 円～23438 円 (-2%かい離)

<NY ダウ>

上値メモ 29576 ドル～30167 ドル (+2%かい離)

下値メモ 28996 ドル～28416 ドル (-2%かい離)

<ドル円>

上値メモ 111.03 円～112.14 円 (+1%かい離)

下値メモ 109.70 円～108.60 円 (-1%かい離)

<ドルユーロ>

上値メモ 1.1112～1.1223 (+1%かい離)

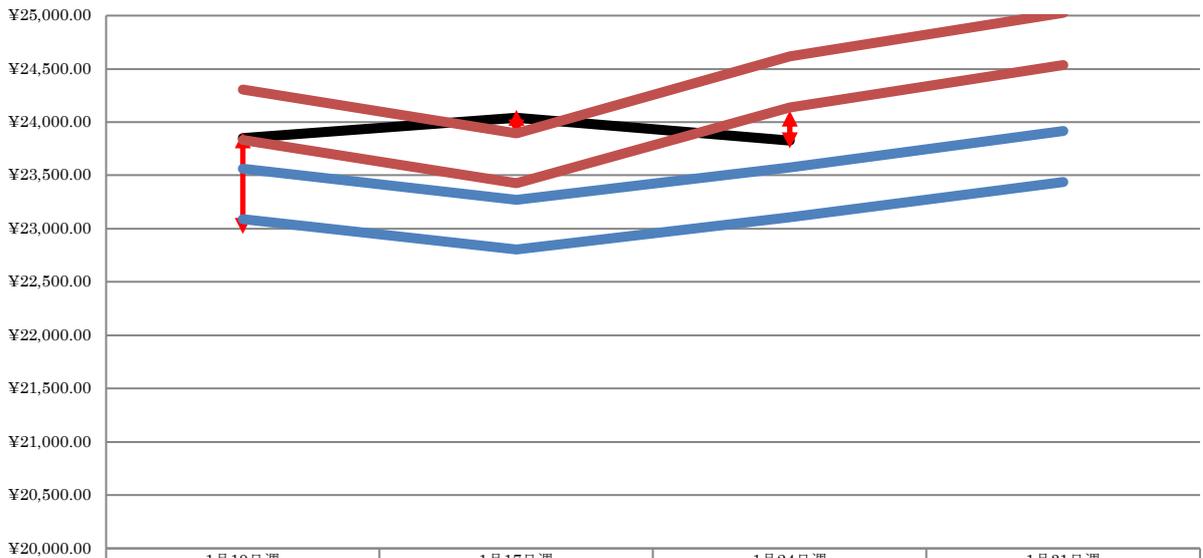
下値メモ 1.1008～1.0897 (-1%かい離)

<ユーロ円>

上値メモ 122.75 円～123.97 円 (+1%かい離)

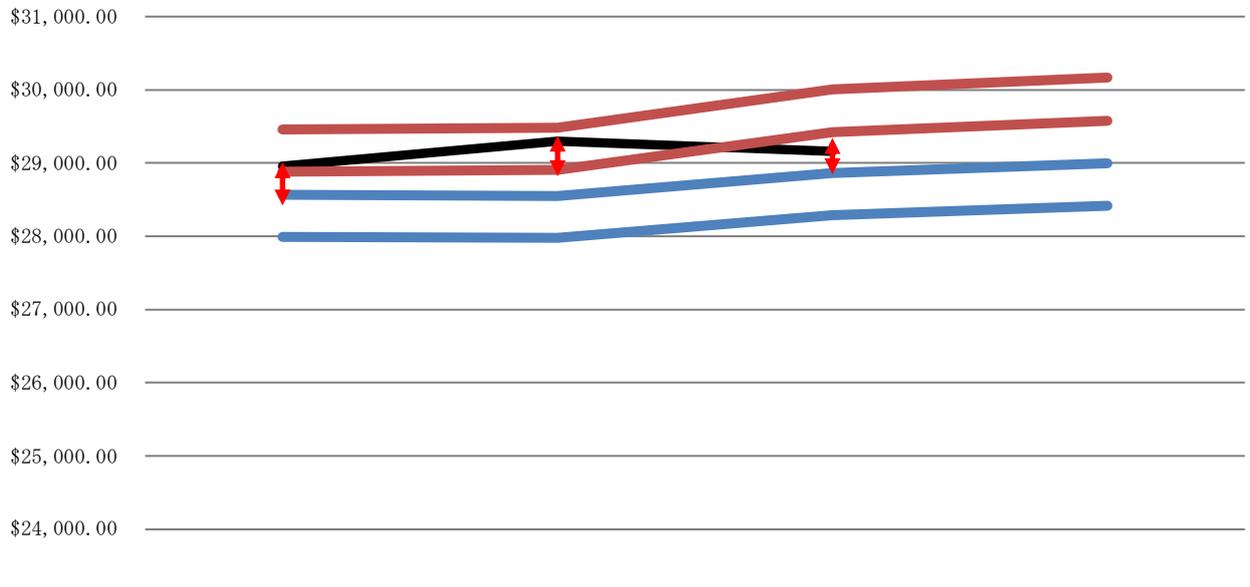
下値メモ 121.50 円～120.28 円 (-1%かい離)

日経平均



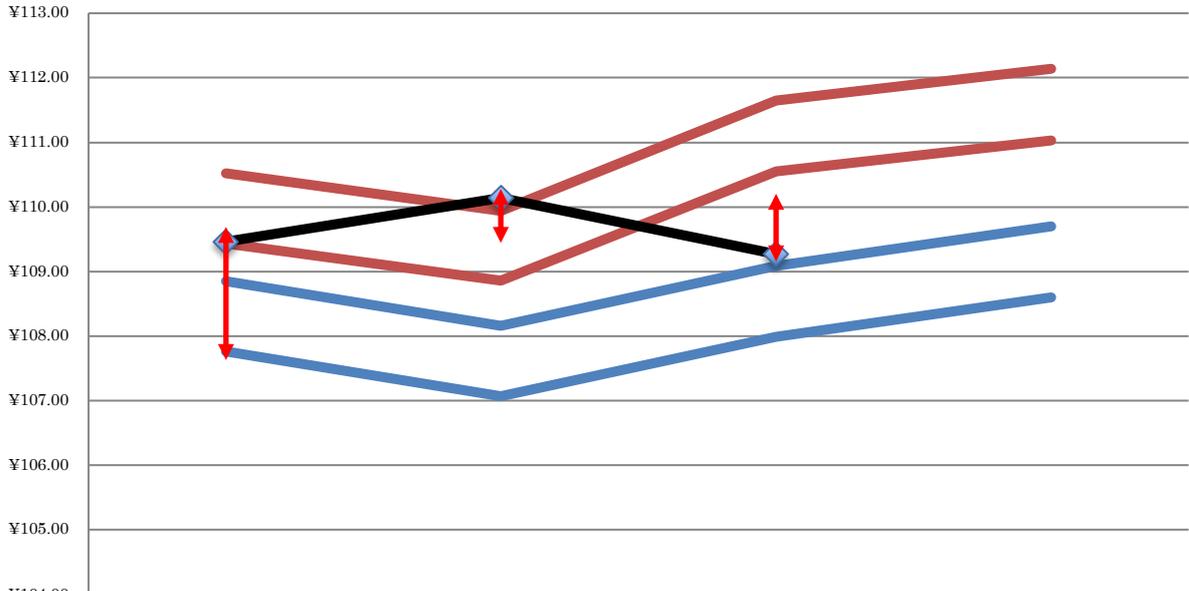
	1月10日週	1月17日週	1月24日週	1月31日週
■ 日経平均	¥23,850.57	¥24,041.26	¥23,827.18	
■ 高値	¥23,903.29	¥24,115.95	¥24,108.11	
■ 安値	¥22,951.18	¥23,875.82	¥23,755.32	
■ 上値 上	¥24,306	¥23,895	¥24,620	¥25,026
■ 上値 下	¥23,830	¥23,427	¥24,138	¥24,536
■ 下値 上	¥23,563	¥23,271	¥23,577	¥23,917
■ 下値 下	¥23,091	¥22,805	¥23,105	¥23,438

NYダウ



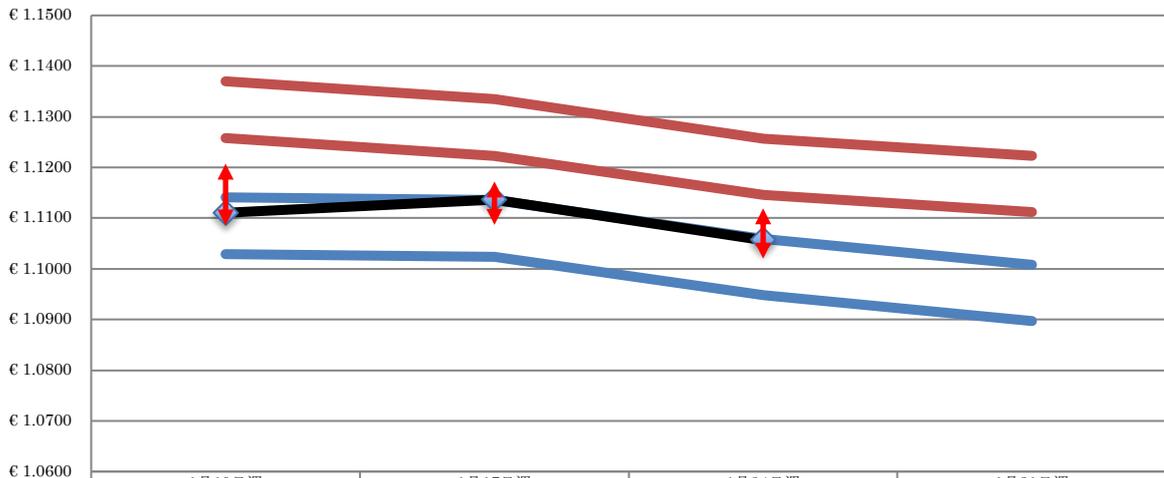
	1月10日週	1月17日週	1月24日週	1月31日週
■ NYダウ	\$28,956.90	\$29,297.64	\$29,160.09	
■ 上値 上	\$29,458	\$29,482	\$30,008	\$30,167
■ 上値 下	\$28,881	\$28,904	\$29,420	\$29,576
■ 下値 上	\$28,564	\$28,549	\$28,867	\$28,996
■ 下値 下	\$27,992	\$27,978	\$28,289	\$28,416
■ 高値	\$29,009.07	\$29,373.62	\$29,341.21	
■ 安値	\$28,418.63	\$28,819.43	\$28,843.31	

ドル円



	1月10日週	1月17日週	1月24日週	1月31日週
上値 上	¥110.52	¥109.94	¥111.65	¥112.14
上値 下	¥109.43	¥108.86	¥110.55	¥111.03
下値 上	¥108.85	¥108.16	¥109.09	¥109.70
下値 下	¥107.76	¥107.07	¥107.99	¥108.60
ドル円	¥109.46	¥110.14	¥109.27	
高値	¥109.69	¥110.28	¥110.21	
安値	¥107.63	¥109.44	¥109.16	

ドルユーロ



	1月10日週	1月17日週	1月24日週	1月31日週
上値 上	€ 1.1370	€ 1.1335	€ 1.1257	€ 1.1223
上値 下	€ 1.1258	€ 1.1223	€ 1.1146	€ 1.1112
下値 上	€ 1.1141	€ 1.1136	€ 1.1059	€ 1.1008
下値 下	€ 1.1029	€ 1.1024	€ 1.0948	€ 1.0897
ドルユーロ	€ 1.1111	€ 1.1137	€ 1.1057	
高値	€ 1.1208	€ 1.1173	€ 1.1120	
安値	€ 1.1085	€ 1.1086	€ 1.1020	

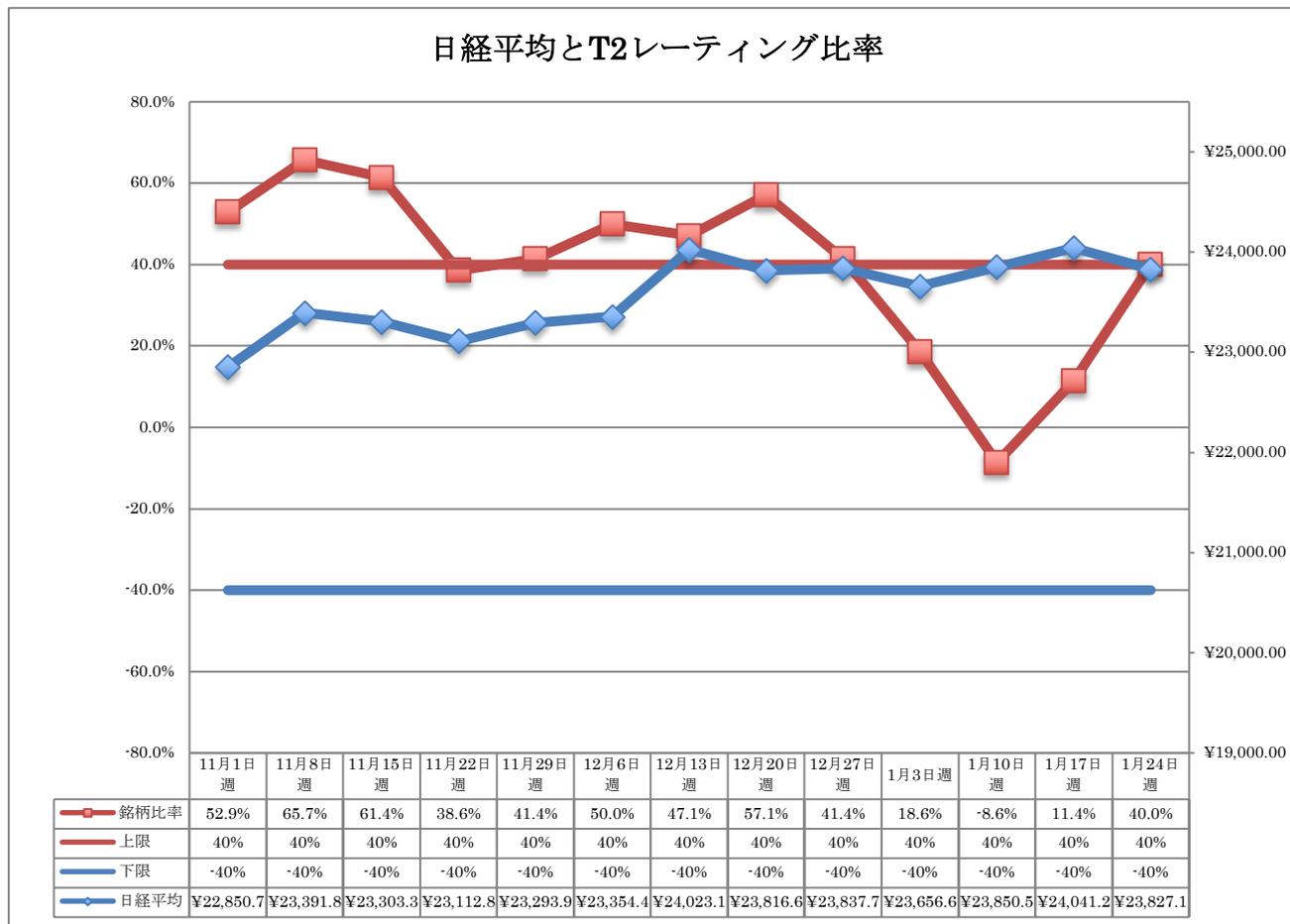
ユーロ円



■■■ レーティング変更 ■■■

同指標は日経平均に多少先行しますが一致指標。同指標は10月18日週+40.0%→10月25日週60%→11月1日週52.9%→11月8日週65.7%→11月15日週61.4%と5週連続で上限ゾーンを突破した後、11月22日週38.6%を挟んで、11月29日週41.4%→12月6日週50.0%→12月13日週47.1%→12月20日週57.1%→12月27日週41.4%と再び、5週連続で上限ゾーンを突破。その後、1月3日週+18.6%→1月10日週-8.6%→1月17日週+11.4%→1月24日週+40.0%と推移し、19年9月2日週以来、18週振りにマイナス圏に陥ったものの、4週間振りに上限ゾーンに再び戻っています。いかに下落させたくない力が働いている証拠でもありますが、過去、同指標は上限ゾーン後にマイナス圏に一度陥って再び上昇してもすぐに-40%の下限ゾーンまで急落しており今回も同様な動きになるかと思われます。また、今回の株価上昇局面では昨年10月25日週60%、11月8日週65.7%、11月15日週61.4%と3度の60%超を記録しましたが、『60%超の高水準の上限ゾーンは目先、天井を示すシグナルにもなっています。直近では「VIXショック」直前の24000円台の高値を付けた18年1月以来の60%超。』、『2020年1月は2018年1月のような1月となることを想定しておいた方が良い』と指摘。ちなみに、18年1月の「VIXショック」当時、同指標が17年12月11日週～18年1月22日週まで7週連続で上限ゾーンを突破した後、それが途切れた

直後から日経平均は18年ピーク1月26日週24129円→3月30日週安値20347円まで約3700円幅の急落調整となっています。



□発行元:塚澤.com 運営事務局
□ご意見・ご感想:info@tsukazawa.com

※免責事項※

「塚澤.com 今週のT2経済レポート」は、株式会社ライブグラフィー(以下、当社)が提供するレポートです。これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いかねます。提供する全ての情報について、当社の許可なく転用・販売することを禁じます。